

『キリスト者の終活』

—あなたは、主イエス・キリストにお会いする備えができていますか—

Ⅰテサロニケ5章1～11節 2020.9.20

序

世の中の「～活」→ある事を実現するための働きor活動のこと。婚活、就活、墓活(?)

終活-自分の死に備えて

〈キリスト者の終活〉

永遠を共に過ごすために、私たちが迎えに来られる主に会う準備

黙22：7、12、20「わたしはすぐに来る。」

〈サタンの惑わし〉(8/30の礼拝メッセージより ジョン・オーウェン)

「サタンの最大の功績は、自分自身の永遠の幸せを考えるのに、死まで十分な時間が残されていると人々に思わせたことである。」

〈私のこの度の入院から〉

—主は来られるのか—

1. 2つの再臨

再臨 **ギ** パルーシア「主としての訪問」「出現」「到来」

ヨハネ14：2～3、使1：11

ゼカリヤ14：4「その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。」

黙1：7「見よ。彼が雲に乗って来られる。」

黙22：7、12：20「わたしはすぐに来る。」

① 空中再臨(携挙) —Ⅰテサロニケ4：16～17、ヨハネ14：2～3

聖徒のために来られる

聖徒たちの復活

聖徒たちを天に引き上げる

② 地上再臨 — マタイ24～25章

聖徒と共に来られる

地上への再臨

世をさばくために(ヨハネ5：29)

「主の日」(5：2) —再臨とさばきを含む終末の時

(参)黙1：10の「主の日」は、主がよみがえられた日のことであり、週の初めの日。主日礼拝の日。

—5：2は再臨のこと

—Ⅰテサロニケ5：1～11を学びましょう—

この箇所は、主の来臨以前に死んだ人々についての不安に答え4：13～18に繋がっている。

2. 再臨の時について(5：1～5)

① 夜中の盗人のように来る(5：1～2)

「兄弟たち」—2：1、4：1

1：4「神に愛されている兄弟たち」

イエス・キリストの十字架により、聖霊の働きによって神を父と呼ぶ恵みにあずかっていることを表している。

「いつなのか」—継続的な時間 2017版

「どういう時か」—正確な時間 「その時と時期について」

「書いてもらう必要がありません」→2017版「書き送る必要はありません。」

↓
主の来臨について、パウロはすでにテサロニケの人々に、その知識を教えていた。

1：10「イエスが天から来られるのを待ち望むようになったか」

「あなたがた自身」→ギリシヤ語原文では文頭にあって強調

1節を更に強調して

「あなたがた自身がよく承知している」

「綿密に」「正確に」

「主の日」—ここでは再臨のこと

「夜中の盗人のように来る」→到来は、まったく突然であることを示す。

↓ 現在形(今のこととして、パウロはとらえている)
主の再臨は必然のことではあるが、いつなのかはわからない。

② その時、起こること (5 : 3)

a. 「人々」ーキリスト者以外の人々

「言っている」→現在形 (再臨のまさにその瞬間の時までも言っている。の意味)

↓何と言っているか

「平和だ。安全だ。」ー人々の生活態度 (まさに自己中心の思い)

エゼキエル13 : 10「平安がないのに『平安』と言って」

エレミヤ6 : 14「平安がないのに『平安だ、平安だ』と言っている」

|| ペテロ3 : 3~4→5節で、こう言い張る彼らは

「突如として」ールカ21 : 34「突然」と訳

「滅びが~襲いかかります」

現在形

滅びー神からの完全な分離

|| テサロニケ1 : 9「永遠の滅び」

※出産との類似点

a. 突然、痛みがくる b. 避けられない

「それをのがれることは決してできません」→二重の否定語

「決して決してできない」

b. キリスト者に対して (5 : 4~5)

「滅びが襲うことはない」

その理由

イ. 暗やみの中にいない→「暗やみ」とは不信者の神から離れた霊的・

↓ 道徳的状态をあらわす

今の世は、暗やみの世界(サタンの支配する)であり、

キリスト者はすでにそこから救い出された (コロサイ1 : 13)

↓

キリストの光の中に招き入れられた (エペソ5 : 8)

ロ. 「光の子ども」「昼の子ども」だから

昼は、光の支配する領域である

光の子ども children of light = 昼の子ども children of the day(ここだけに出てくる語)

1節から、この5節の前半までは「あなたがた」と言い、

後半から10節までは「私たち」と言っている。

→それは、パウロは自分も含めて、キリスト者全てが「暗やみの者」ではない事を言い表している。 神に敵対する者

「光の子ども」→光の中に属する者 エペソ5 : 8

「光」とは神の臨在とその愛顧を指す語

ヨハネ1 : 4~9

「光」ー「暗やみ」

喜び 悲しみ・苦しみ

祝福 敵意

いのち 死

3. 2つの生き方 (5 : 6~8)

a. 暗やみの者→「ほかの人々」

イ. 眠っているー霊的な目が開かれていない。霊的無感覚

ロ. 酔っているー実際的な不品行な生活 □ーマ13 : 12~13

b. キリスト者→「私たち」

イ. 目をさましてー霊的な覚醒、心の目を開いていつも主を覚える。

ロ. 慎み深くー光の子どもらしく、節度あるバランスのとれた生活

直訳「酔わないで」 エペソ5 : 8「光の子どもらしく歩みなさい。ー光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのですー」

ハ. 神の武具を身に付けて (エペソ6 : 13~17、□ーマ13 : 12)

1 : 3においても言及

信仰(の働き) } 胸当て } キリスト者の姿は、主から与えられた使命に忠実に生き、主を待ち望む
愛(の労苦) } (体の中心を守る) }
望み(イエス・キリストへの)ーかぶと }

望みが強調されているのは→主とお会いすることへの強い確信

救われた者の最高の望み→主と顔と顔を合わせる (1コリント13 : 12)

4. キリスト者とは (5 : 9~10)

キリスト者 = 「光の子ども」「昼の子ども」

「定める」→救いにおける神の主権を明らかにしている。

① キリスト者とは

a. 神の御怒りに会うことがない

(神の御怒りに会う者—エペソ2 : 3、5 : 6)

b. 主イエス・キリストにあつて救いを得た者 (ヨハネ3 : 16)

より、~を通して (through)

c. 主が私たちのために死んでくださった

キリストの死 (十字架) は私たちのためであった

(1ペテロ2 : 24、1コリント15 : 3)

d. 主とともに生きる

「目ざめていても、眠っていても」→「生きるにしても、死ぬにしても」

私たちは、すでに天国民として生きている。(ローマ14 : 8、ピリピ1 : 21)

5. 主イエス キリストに会う備え (5 : 11)

「ですから」—今まで述べてきた理由で

therefore そういうわけですから

「あなたがたは」—ここに来て再びパウロは、テサロニケの兄弟たちに

呼びかける

「今しているとおり」→2017版「現に行なっているとおり」

4 : 1「事実いまあなたがたが歩んでいるように」

→テサロニケの人々は、神の救いの目的に沿って生きていた。

① 2つの命令

a. 互いに励まし合う→心をふるいたたせる。力づける。助け合う。

ヘブル10 : 25「かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、

ますますそうしようではありませんか」

b. 互いに徳を高め合う→霊的成長のために

建て上げる

エペソ2 : 21~22、

1ペテロ4 : 10

② 主の来るのは近い

黙22 : 12「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて

報いるために、わたしの報いを携えて来る。」

a. キリスト者は

神の救いの目的に沿って生きているか

神の栄光を現わすために (1コリント6 : 20、10 : 31)

b. 信じていない人は

ヨハネ5 : 29「悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。」

イエス・キリストを信じなかった者

このさばきを回避する唯一の方法

主イエス・キリストを自分の救い主として受け入れる。

使26 : 18~20

c. 全ての者が、こう告白すべき

マラナ・タ「主よ、来てください」